



地域課題解決に向けた先進的な取り組み内容に耳を傾ける参加者たち

市は12月2日、30地区の振興会長など役員を対象とした研修会をプラザイン水沢で開催しました。各地区振興会が抱える地域づくりの課題解決の一助となるよう毎年開催しているものです。

NPO法人いわて地域づくり支援センターの若菜千穂さんを講師に迎え、「地域の課題を解決するために」と題した講演では、地域運営のノウハウや高齢化が進む地域の公共交通問題への対応などの先進事例が紹介され、地域づくりについての研さんを積み重ねる機会となりました。

「より良い地域づくりを目指し」



協定書を手にする千野社長(中央左)、小沢市長

市は、東北日発(株)と立地協定を結び、12月18日に市役所で調印式を行いました。

同社は、自動車シートフレーム部品の製造を行う工場を江刺中核工業団地(江刺区岩谷堂)に立地し、12月1日から操業を開始しています。

「地元雇用の創出と地域社会との融和を図りたい」と話す千野社長に、小沢市長は「長年培った技術を發揮していただき、工場の発展を期待する。できる限りのサポートをしていく」と謝意を述べました。

「東北日発(株)と立地協定を締結」

おうしゅう 一鍬が生んだ人とまちの絆

奥州市民劇「大地の侍 吉川鉄之助翁物語」北海道公演

水沢出身で姉妹都市北海道長沼町の開拓の祖とされる吉川鉄之助を顕彰する奥州市民劇「大地の侍 吉川鉄之助翁物語」が12月9日・10日、北海道北広島市で公演されました。長沼町開拓130年の記念事業として同町からの声掛けを受け、本市から40人、同町から70人のキャストによる迫真の演技で観客を魅了しました。

お祝いに駆け付けた及川新太副市長は「多くの人に感動を与える演技。姉妹都市が手と手を組み公演を成し遂げた」と姉妹都市のさらなる交流に期待を寄せました。



戸長(村長)となった鉄之助が村人やアイヌの人たちから祝福を受ける

まえやわ 俳人をしのび思いを一句に 梧逸忌第28回全国俳句大会

梧逸忌第28回全国俳句大会(同実行委員会主催)が12月7日、前沢ふれあいセンターで開催されました。この大会は、前沢出身の俳人・遠藤梧逸をしのび、毎年命日に開催されるもので、多くの俳句愛好者が参加。全国から事前に応募があった3,138句のほか、当日句も172句が寄せられました。

当日句の最高賞・梧逸賞には、北上市の下田榮一さん(84)の「たましひのほどよく抜けて懸大根」と詠んだ句が選ばれました。



選者の小畑柚流氏から賞状と記念品を受け取る下田さん(左)

えさし 美味なりんごが待ってます 第8回江刺りんごまつり

第8回江刺りんごまつり(岩手江刺農協、同農協りんご部会主催)が12月2日、3日の両日、えさし藤原の郷で開催されました。りんご皮むき大会や訳ありりんごの詰め放題などが行われ、多くの人が訪れました。

2日には、岩谷堂高校の生徒が開発に携わったりんごスイーツを販売。朝倉陽君(3年)は「まつりでは初販売の「りんごっふる」と「林檎のしっとりケーキ」。和風と洋風の2種類で、幅広いお客さんに受け入れてもらえると思います」と商品をPRしました。



好評だった岩谷堂高校生による「りんごスイーツ」販売会

こどもがや 伝統を受け継ぐ心、脈々と 南股芸能まつり

南股地区振興会(菅原英記会長)主催の南股芸能まつりが12月3日、南股地区センターで開催されました。みちのく衣川霧山太鼓で幕を開け、衣川小学校み神楽有志や大原神楽保存会、兼ねてより神楽団体が親交の深い鶯沢神楽保存会(宮城県栗原市)の出演もあり、総勢5団体が伝統の舞を披露しました。

9月に東北神楽大会で優勝した川内神楽保存会は「一の谷」を上演。源氏の武将熊谷直実が、昔仕えた平経盛の子、敦盛を泣く泣く討ち取る場面を熱演しました。



情感を込めて「一の谷」を演じる川内神楽保存会

まえやわ よいしょと掛け声元気よく 絵本の読み聞かせと餅つき

企画展「うしはく発犬伝」の関連イベントである絵本の読み聞かせと餅つきが12月9日、牛の博物館で行われました。親子連れなど多くの参加者が「おはなし広場」の皆さんによる読み聞かせと餅つきを楽しみました。

子どもたちは臼ときねで餅つきを体験し、出来上がったばかりの柔らかいきな粉餅に舌鼓を打ちました。前沢小学校1年の佐々木悠聖君は「初めての餅つきで楽しかった。思ったよりきねが重かったけど、またやってみよう」と笑顔で話しました。



読み聞かせに聞き入る参加者たち(左)、「よいしょ! よいしょ!」と掛け声に合わせて(右)



「無言の水筒」と名付けられた特別企画(写真左手)。ほかにも軍服やポスターなど約300点が展示された

みずやわ 物言わぬ資料が伝える戦争 企画展「郷土兵団物語」～わが村の戦争の記憶～

平和ミュージアム旧日本陸海軍博物館(江刺区、八重樫正博館長)の主催する企画展「郷土兵団物語」が12月4日から10日にかけて、まちなか交流館で開催されました。太平洋戦争開戦記念日の8日に合わせた展示で、先人の労苦に思いを馳せる場として企画されました。

「一つにつき一人の兵士の物語があった」と八重樫館長は31個の水筒を紹介。会場を訪れた水沢区の伊藤新一さん(88)は「昭和20年9月から従軍が決まりました」と自己の記憶と重ね合わせていました。